

はじめに

日本が開発途上国に対する政府開発援助(ODA)を開始して、今年で60周年を迎えました。この間、日本は国際社会の平和と安定及び繁栄のため、開発途上国や地域の人々に対する支援を行ってきました。日本のODAは、自助努力支援、持続的な経済成長の重視や人間の安全保障の推進などの特色があり、開発途上国の成長、貧困削減及び国際社会の様々な課題の解決に貢献してきました。

他方、この間、日本及び国際社会を取り巻く環境は大きく変化しており、日本のODAは更なる進化を遂げる必要があります。そのために、外務省は今年、ODA大綱の見直しを行うことを決定し、有識者、NGOや市民団体、経済界など様々な方々の意見を伺いつつ、本年中の策定を目指して検討を進めています。

新大綱の下においても、ODA評価は、より質の高いODAを実施するため、また国民の皆様に対する説明責任を果たすために、一層重要な役割を果たしていく必要があります。

国民の皆様は、より広くODAを理解していただくために、外務省は、分かりやすいODA評価の実施を心がけています。また、評価結果については、ODA政策の改善や新たな案件形成に役立てるべく努めています。そして、これらの活動を御紹介するとともに、政府全体のODA評価活動を概観する年次報告書を毎年発行しています。

本年度の報告書では、第1章で日本及び国際社会におけるODA評価の動向を概説し、第2章で主に2013年度に外務省、関係府省庁、JICA及び被援助国側がそれぞれ実施した評価結果の概要を紹介しています。また、第3章には、2012年度の外務省によるODA評価結果に対するフォローアップ状況を掲載しています。

本報告書が、読者の皆様が日本のODAとその評価に対する理解を一層深めて頂く一助になれば幸いです。

2014年11月

官房長 上月 豊久

〈表紙写真説明〉

左上：「ラオス国別評価」より



ビエンチャン市内を走る日本のODAによって寄贈されたバス

ラオスの首都ビエンチャンでは、市民の足としてバス交通の需要が大幅に増加している一方で、老朽化した車両が運用されており、事故や交通渋滞、大気汚染などの問題が発生しています。このため日本は燃費効率や環境面に優れた日本製のバス42台と、整備・修理用機材の調達を支援しました。これにより首都ビエンチャンにおけるバス交通の安全性が確保され、交通渋滞の緩和や事故の抑制に貢献しました。

左下：「アフリカン・ミレニアム・ビレッジ・イニシアティブへの支援の評価」より



かぼちゃの葉を収穫するマラウイのAMVの女性

アフリカン・ミレニアム・ビレッジ（AMV）は、国連ミレニアム・プロジェクトの提案により、ミレニアム開発目標の達成が遅れているサブサハラ・アフリカ地域の貧しい村落を対象に、総合的な開発アプローチを通じて極度の貧困を解消し、自立的に発展する能力を備えた村落を形成することを目指した援助事業です。

日本は国連人間の安全保障基金（UNTFHS）を通じて8か国9村への支援を行っています。日本の支援により、マラウイのAMVにおいても、メイズ（トウモロコシ）、大豆、タマネギ、かぼちゃなどの多様な作物が収穫できるようになりました。

右上：「コロンビア国別評価」より



ボゴタ市チャピネロ地区の学校の子供たち

首都ボゴタ市では、農村部や地方都市での武力紛争から逃れてくる国内避難民により貧困街が形成され、犯罪、暴力、麻薬売買などの問題が頻発し、治安悪化の要因となっています。チャピネロ地区もこうした貧困地域で、学校に通うことが出来ない子供が多くいました。

このため、地元のNGOであるヌエバ・グラナダ家族財団は、2000年に同地区で主に国内避難民など貧困層の児童を対象とする学校を設立しました。

日本は2009年、同財団に対し、新築校舎（3教室）を建設するための資金協力を実施、これらの教室は図書室、図工室、音楽室として使用されており、教育の充実のため活用されています。また、図書室は保護者も利用可能で、親の識字率向上の場にもなっています。

右下：「ベトナム都市交通セクターへの支援の評価」より



日本のODAによって建設中のニャットン橋（日越友好橋）

ハノイ市を中心として増加する交通需要への対応、物流の効率化及び交通渋滞の緩和を図るため、日本はニャットン橋（日越友好橋）の建設の支援を行っています。第3期では、ハノイ市を横断する红河に架かる橋梁及びアプローチ道路等の建設を支援しています。同橋の開通により物流の効率化や交通渋滞の緩和だけでなく、ハノイ市内やベトナム北部地域の経済発展の促進などが期待されます。

なお、ニャットン橋（日越友好橋）の下部工の工事では、日本独自の技術として鋼管矢板井筒基礎（SPSP）が用いられました。